

平和統一  
主日説教

## 嫌いな人のために祈る?

飯塚拓也 牧師

(日本基督教団竜ヶ崎教会 / NCC 東アジアの和解と平和委員会委員長)



「実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、規則と戒律づくめの律法を廃棄されました。」(エフェソの信徒への手紙2: 14~15)

去る6月24日の木曜日の夜、東京・港区の浄土真宗光明寺を主会場としてオンラインによる「ミャンマー 祈りと連帯の集い」が開催されました。

2月1日の国軍によるクーデター以来国軍による弾圧が続くミャンマーの平和を願って、宗教者や在日ミャンマー人たちによる祈りのリレーの集いでした。その祈りのリレーの中で、在日ミャンマー人の仏教の僧侶が祈ってくださった祈りが、私の中で強く残っています。

その祈りは、「ブッダの言葉 (スッタニパータ)」にもとづいて祈るものでした。スッタニパータはこの地上のすべての命の幸いを祈り、これから生まれようとする命をも覚える祈りでした。「大きなものでも、中くらいのものでも、微細なものでも」と、より具体的に祈るスッタニパータに新鮮さを覚えたのですが、その祈りの続きが「私が嫌いな人」で始まる祈りだったのです。「私が嫌いな人が、守られますように」、「私が嫌いな人が、幸せに暮らせますように」、「私が嫌いな人の望みが、叶いますように」。

この「嫌いな人のために祈る」が、私の中に残り、その後これを何度も反すうしました。そして、ハッと思い当たったのです。あの、十字架上でのイエスの祈りを。「父よ、彼らをお赦しください。自分が何をしているのか知らないのです。」(ルカ23: 34)。そうです、「イエスの祈りこそ、嫌いな人のために祈る」祈りだったのです。

「敵のために祈る」は私たちもよく聞きますし、そう祈ります。でも、「敵のために」にはどこか抽象的な響きがあるように感じます。でも、「嫌いな人のために」と言葉を噛みしめると、この「嫌いな人のために祈る」は具体性を伴うことに気づきます。そう、「敵のために」から、「嫌いな人のために」と深めることによって、私たちの祈りは高められるのです。でも、そうはわかってもね。「敵のため」ならまだ祈られても、「嫌いな人」となると、誰かの顔がちらついて抵抗感が湧いてきて…です。

嫌いな人のために祈るのは、実はとても難しいことなのです。こう考えると、パウロが言っている「隔ての壁」についても、思いが変わってきます。「隔ての壁」と聞いて、高く分厚い壁が目の前に立ちはだかるように思います。それはまるで、「パレスチナの壁」のように、私たちをあちら側とこちら側に分け互いに敵意をあおります。しかし、パウロが語った「隔ての壁」は、もしかしたらそのような壁ではないのかもしれ

ません。

2019年7月27日から8月1日にかけて、在日大韓基督教会の皆さまと共に朝鮮民主主義人民共和国を訪問させていただきました。韓半島が南北に分断されている中で、朝鮮基督教連盟と韓国キリスト教会、そして在日大韓基督教会の合同集会開催の願いを伝えるための訪朝であり、その訪朝にお誘いだけだったためです。7月28日(日)には、朝鮮基督教連盟ボンス教会の礼拝に出席し、礼拝後には事前に準備作成した「朝鮮基督教連盟の皆様へー謝罪と主にある和解を願いつつ」を朗読しました。その内容は、1910年の強制併合以来36年にわたり弾圧、搾取、差別の限りを尽くしたこと、またキリスト者がそのような国策に反対せず、むしろ国策に協力することで自らの保身を図ったことを謝罪しました。そして、今こそ私たちはキリストにおいて共に歩ませていただきたいとの願いを文章にしたものです。この文章は礼拝に出席していた方々に受け止めていただき、退堂する際には、大きな拍手と「神、ともにいまして」の讃美歌を合唱していただきました。

7月31日(水)には、「板門店」を訪問しました。以前韓国に訪問した際に板門店には立ち寄っていましたが、北からも板門店を訪れるという貴重な体験をさせていただきました。軍事境界線である38度線を前に建つ建物の2階に案内され、そのバルコニーから38度線を目前にし、そこで南北の統一を願う祈りをみんなで献げました。また、訪問の記念にとメッセージを書くこととなり、「一日も早い北南の統一がなりますように。同じ民族がへだてをこえて自由に行き来し、共に喜び共に涙する日が来ますように。そして、この板門店が、未来と平和のシンボルとなりますように」と記させていただきました。

皆さまもご存知のように、軍事境界線には壁はおろかフェンスすら築かれてはいません。そこにあるのは、1本のコンクリートの線です。そして、この線は、幅が50cmで高さはたった5cmしかないのです。南と北を行き来するには、この線をまたぐだけでよいのです。しかし、この「高さ5cmの壁」が、長く一つの民族を分断し続けているのです。たった「高さ5cmの壁」!

エフェソの信徒への手紙の「隔て」と「壁」は、新約聖書ではここで1回限り使われる言葉です。そして、この背後に、異邦人を「敵」とする概念があったといえます。隔ての壁は、敵意となってそびえたつというのです。隔ての壁は私自身の内にあり、あるいは私たち自身が壁になってしまうことを戒めているのではないのでしょうか。だから、「嫌いな人のために祈る」ことが本当に大事なのだと思います。十字架の上のイエスの祈りを、私たちの祈りとしてしたいと思います。

## 関東地方会

## 第72回定期総会を開催 新会長に李明忠牧師を選出



7月22日(木) 関東地方会の第72回定期総会が、在日本韓国YMCAで開催された。開会礼拝には地方会長の金秉喆牧師により、「神さまの武具」(エフェソ6:10~11)という題の説教がなされた。

総代101名中、63名の出席、委任19名を確認して開会されて会議に入り、新地方会長に李明忠牧師を選出し、役員改選、献議案審議、地方牧師の委任式、伝道師の認許式などが行われた。

## (1) 役員改選

- ・ 会長：李明忠牧師 (横浜)
- ・ 副会長：金容昭牧師 (西新井)、申大永長老 (東京希望)
- ・ 書記：金迅野牧師 (横須賀)
- ・ 副書記：李在益牧師 (新潟)
- ・ 会計：朴英遠長老 (品川)
- ・ 副会計：金栄千長老 (東京)

## (2) 関東地方会の規則改定の件が決議され、改定委員会などは任職委員会に一任

## (3) 長老増員承認 ・ 船橋教会 2名、・ 東京第一教会 1名、・ 横浜教会 2名、・ 東京教会 5名

## (4) 予算案承認：18,769,336円

## (5) 地方牧師委任式：金聖泰牧師

## (6) 伝道師認許式：李銀珠 (ハンサラン)、張聖 (ハンサラン)

## 中部地方会

## 第58回定期総会を開催 新会長に金明均牧師を選出



第58回中部地方会定期総会が、2021年7月22日木曜日、名古屋教会で開催され、総代31名中19名が出席、委任8名で開会された。

開会礼拝では、会長の鄭守煥牧師が「この杯を飲むことができるか」(マタイ20:20~28)という題で説教を行った後、金明均牧師の宣教師(千曲ビジョン伝道所)加入式と聖餐式が行われた。

式と聖餐式が行われた。

主な報告や決定事項は下記の通りである。

- (1) 名古屋教会長老2名増員選出承認
- (2) 豊田めぐみ伝道所の宣教師補助承認
- (3) 無任所牧師期間延長2名(朴太元牧師、金智一牧師)承認
- (4) 四日市教会解決委員会を立ち上げることを承認
- (5) 2021年度予算案承認：12,882,083円
- (6) 役員選出

・ 会長：金明均牧師 (名古屋)

・ 副会長：崔和植牧師 (長野)、金勝正長老 (豊橋)

・ 書記：高誠牧師 (岐阜) ・ 副書記：許光涉 (岡崎)

・ 会計：鄭仁仙長老 (岐阜) ・ 副会計：金誠淑長老 (名古屋)

・ 会計監査：申淑姫勸士 (名古屋)、黄美京勸士 (豊田めぐみ)

## (7) 各部(委員)長

・ 伝道部：権潤日牧師 (浜松)

・ 教育部：李珍容牧師(豊田めぐみ)

・ 社会部：李大宗長老 (名古屋)

・ 考試部、電磁メディア委員会、韓日宣教委員会：金明均牧師(名古屋)

・ 青年部：高 誠牧師 (岐阜)

・ 女性部：金珍明長老 (長野)

・ 財政部：鄭仁仙長老 (岐阜)

(報告：高誠牧師)

## 曾經総会長楊炯春牧師が召天 在日大韓基督教会葬として葬儀



第39回総会期(1987年~1989年)の総会長として歴任された楊炯春牧師が、90歳の地上での生涯を終え、去る2021年7月15日に天に召され、出席されていた大阪教会において在日大韓基督教会葬として葬儀が行われた。

故・楊炯春牧師は、1931年、咸鏡北道の咸興で生まれ、1950年の6.25戦争で南へ避難後、韓国神学大学、慶北大学校大学院を卒業し、1966年大韓イエス教長老会から牧師按手を受けた後、大邱信明女高の校牧、大邱青山教会を開拓設立した。

1969年東京神学大学院への留学を契機に來日し、横須賀教会において牧会、大韓イエス教長老会から日本宣教師として派遣され、京都教会にて20年間牧会した(1974年~1993年)。

その後アメリカ長老教会(PCUSA)から請聘を受け、オハイオ州のコロンブス韓人教会にて担任牧師として20年間仕えた後、2014年日本に帰ってからは大阪教会に出席した。

在日大韓基督教会所属の楊尚眞牧師は長男であり、鄭然元牧師と鄭在植牧師は婿である。

## 第3回臨時常任委員会開催 第56回定期総会の日程など変更

去る7月18日、第3回臨時常任委員会が、Zoomによるオンライン会議で行われた。2021年10月10日~12日、東京教会で開催予定の第56回定期総会の日程、場所などをコロナ感染症の拡散により変更することとした。緊急開催された臨時常任委員会では報告などは省略され、以下の項目が可決された。

- (1) 第56回定期総会は、2021年11月23日(火、休日)、10:00~18:00、大阪教会で開催する。(一日のみの総会)
- (2) コロナ感染拡大により「対面定期総会の開催が困難」になった場合、「オンライン定期総会」に切り替える判断と決定などは任職委員会に一任する。
- (3) 役員改選の一次選挙は事前郵便選挙を行い、総会開催 当日に二次選挙を行う。そのために総代員の顔写真付き名簿の印刷物を事前に配布する。
- (4) 第55回第3回常任委員会は、9月23日(木)13:00~17:00、オンラインで行う。また会計報告書作成にある程度時間を要することから、決算報告のために10月10日(主日)17:00、オンラインによる第4回臨時常任委員会を開催する。

### <お知らせ>

●総会事務局は8月10日(火)~13日(金)、夏季休暇のためお休みします。

## 2021年度 牧師・伝道師・宣教師考試 日程、場所変更のお知らせ

日 程：2021年9月22日(水)

時 間：09:00~19:00

場 所：在日韓国基督教会館(KCC)

大阪市生野区中川西2-6-10

(☎06-6731-6801)

## 全協OBに聞く2

※9月号にも続きます。

### 全協が自分に及ぼした影響

大阪教会 金 愛 利



青年時代に全国青年協議会(全協)に出会えていなければ、私は高校卒業を機に教会生活から離れていただでしょう。幼い頃から親に連れられて教会に通っていましたが、自分の信仰に疑問を抱き、教会生活はさほど重要ではないと感じていたからです。

全協の全国夏期修養会に参加した時に、各地方にいる青年の個性豊かな存在に刺激を受けました。それぞれが抱えている神への思い、教会への思い、在日についての思い。正解のない疑問へ真剣に討論し、傷つけ傷つけられ、夜を明かして本音で語り合ったあの人間臭い環境は、私にとってかけがえのない経験でした。信仰とは何か、弱者社会の問題に関わること、アイデンティティの問題等を真剣に考え話し合いました。

また、全協から派遣されて世界のクリスチャン青年との交流にも参加させてもらいました。日本の問題のみならず、世界のクリスチャン青年と交わることで初めて知った問題もありました。全協に関わらなければこの世の問題点に気づくこともなく、弱者の立場など考えることすらせず、時の流れるまま利己的に過ごしていたでしょう。

何も考えずに生きる方が楽だったかもしれません。知ることで苦しみ、葛藤を抱き、怒り、悩み、なんとか行動してみようとしても自分の限界を知り、神の御心がどこにあるのか、聖書から答えを得ようと聖書勉強をし、祈りの時間をもっていたのが私の青年時代です。全協という場は、ほほなかつたと言っても過言でない私の信仰が、クリスチャンとして生きていく決心をさせてくれた場所です。

大学入学と同時に関西青年連合会・全協に参加し、そこで知り合った青年たちとの関係はもう30年になろうとしています。教会から距離を置こうとしていたのに、自分の青春時代は、ほとんどの時間を教会生活に捧げていました。当時出会った青年たちとは今も年に1回会うかどうかですが、会うと何となく故郷に帰ってきたような安心できる場所になります。それはきっと、当時自分達のありのままの姿を共有した時間がなせた業でしょう。

### 弱くされた者と共に生きる

熊本教会 崔 林 承



ヨロブン、アンニョンハセヨ～!

私が全協にかかわれたのは、2年の浪人を経た大学入学後から約6年と少しの間でした。

西南地方会で春・秋の修養会をもち、全協では冬の指導者研修会と夏の(大)修養会。準備で大変な所は他の委員に任せっぱなしで大いに楽しい時間を過ごさせて頂きました。決められたプログラムもよかったのですが、それ以上に夜(から朝まで)の交流会が一番楽しかったのはみなさんご存知の通りです。

在日韓国人・キリスト教信者という自分の立場は、日本社会

と相容れない事象に出くわすことも多く、ただでさえ人生の大きなピンチになりがちな思春期から青年期は大変な時期だったと思うのですが、神様のみ旨、素晴らしい講師の導きと、素晴らしい仲間のおかげで、大いなる恵みの時期として過ごせたと感じます。ただ、沢山受けた恵みをどこにも返せていないことに不甲斐なさを感じるばかりです。

先輩には社会人ながら精力的に活動されていた方も多かったのですが、自分は働き出してからは仕事に忙殺されてしまい、以降ほとんど参加できなくなってしまいました。今私は、「弱くされた者と共に生きる」を自らのテーマとし、熊本・宮崎県境の山奥で地味に仕事をしております。

最後になりましたが、5年前の熊本地震の際は多方面から多大なご支援・祈りを賜り、本当に感謝しております! シロアリに喰いつくされていた牧師館だけでなく、鉄筋コンクリート造だった教会本体も致命的なダメージを負い「応急危険度判定」の札が張られ、外壁がはがれ落ちた教会に心を痛める日々でした。その中で教会の建替えという「奇跡」をみて神の御業に恐れおののき、毎週右の頬をつねりながら教会の門をくぐっております。

コロナ禍を早く過ぎ去らせて下さいと祈りつつ、かつての、そして新しい仲間と大いに語り合える日を楽しみにしております。

### 青年会、全協の思い出

大阪教会 鄭 光 男



私が青年会、全協に参加していた頃は、1980年初めの頃でした。その頃の全協の主題には「在日を告白する教会青年の責任」、「時代的使命を担うキリスト者青年」、「最も小さき者と共に歩まれたイエスに従って」がありました。今回この文を書くにあたり、当時の全協の機関紙である『燈台』

を再び手に取ったのですが、その頃の懐かしい出来事が思いだされました。当時は分からないことばかりで、行事での活動に精一杯だったように思います。「在日」の自分として、「教会青年」として、「民族」とは、「キリスト者」とは、といった問題をどのように考え、進んで行くべきか、社会に出てまだ20代初めだった私は暗中模索の日々を送っていました。

そんな中、個教会や地方会の青年の皆さんと出会い、そこで繋がりを持てたことが私の救いになりました。一番の思い出は、夏の全国修養会です。数少ない在日同胞キリスト教会青年との交流を求め、三泊四日という限られた時間の中、個教会での現状・思いや問題点などを話しました。難しい話しも取り扱いましたが、そのような話しの中で、在日としての日常生活、教会や青年会についての考えや思いなどについての些細な話しを、信仰によって結ばれた仲間たちと共有できたことが何よりも楽しかった思い出として残っています。

分団グループで行ったスタンツ(寸劇)は、その当時の思いや感じたことを表現できる楽しいプログラムでした。修養会での時間は非常に短く、時間を惜しんで毎晩語りあかしてしまうほどでした。当時出会った青年とは今でも付き合いがあり、そのような貴重な繋がりをもてたことは私の人生で大きな財産となっています。昨今、教会の未来を担う青年の教会離れは重要かつ深刻な教会全体の問題です。SNSの進歩によりコミュニケーションの方法が多様化している中で、有効な手段とは、青年のニーズに沿ったビジョン作りが大切と感じています。

## ルツ結婚相談所

在日韓国人・帰化人、結婚・再婚を望んでいる人へ  
年齢 23 歳～70 歳まで、北海道から九州まで

親身になってご成婚までねばり強くお世話をさせていただきます。お気軽にお電話ください。

090-3429-9707 代表 崔貞淑

## 韓日対照讃頌歌販売



韓国の新讃頌歌版です。交読文も韓日対照で掲載されています。

●B6版変型・1483ページ

●価格:2,500円(消費税・送料込み)

※お求めは総会事務所へ

## <2021年 在日大韓基督教会・日本基督教団 平和メッセージ>

在日大韓基督教会 総会長 趙 永 哲  
日本基督教団 総会議長 石橋 秀雄

義の実は、平和を実現する人たちによって、平和のうちに  
蒔かれるのです。(ヤコブ3:18)

新型コロナウイルス感染症のパンデミックは、世界中を揺るがし、経済的格差のみならず、命の格差までも浮き彫りにしました。日本国憲法は前文に「われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免かれ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する」として、平和的生存権を謳っております。しかし今の日本は、平和的生存権が脅かされ、格差社会の増幅に歯止めを掛けることすら出来ておりません。

格差社会は「人権としての平和」を脅かしており、これに対し、私たち日本基督教団と在日大韓基督教会（以下、両教会）は、「平和を実現する」（マタイ5:9）使命を帯びて遣わされている教会として、日本をはじめ世界に生きる人々の命が守られ、安心して暮らすことのできる平和な社会の実現を祈り求めます。

### 難民・在日外国人の人権について

日本政府は今年2月、超過滞在者(オーバーステイ)や入管施設での長期収容を改善するためとして「出入国管理及び難民認定法(入管法)」の改正を行おうとしました。しかし3月、名古屋入管に収容されていたスリランカ人女性の死亡事件など、収容者に対する人権蹂躪が明るみに出る中、市民団体や教会、弁護士会、国際人権機関からの批判、国会前のシット・インなど、多くの人たちの行動により、改正は廃案となりました。しかし、認定率1%以下の難民認定制度や、難民申請者や超過滞在者の人間としての尊厳を奪い物のように扱う入管収容制度の問題は、何ら変わっておりません。

在日コリアンの人権獲得のために闘ってきたわたしたち両教会は、人権侵害が今なお繰り返されていることに強く抗議し、入管法の根本的改正を祈り求めます。

### ミャンマーの人権問題について

2021年2月1日、ミャンマーにおいて軍事クーデターが起り、軍による市民への弾圧で犠牲者が増え続けています。日本はミャンマーに対し多額の政府開発援助(ODA)をしてきており、多くの日本企業もミャンマーに進出しています。日本政府はミャンマーの人びとの声を聞き、今こそ、人権侵害に対して確固たる態度をもって対応することを、私たちは祈り強く求めます。

### 日本の原子力政策について

「絶対安全」「経済に必要」という「神話」に彩られてきた日本の原子力政策は、福島原発事故において完全に崩壊し、10年を経た今もなお事故収束は全く目処が立っておりません。日本政府は今年4月、東京電力福島第一原発で増え続けるALPS処理水を国の基準を下回る濃度に薄めたうえで海洋投棄する方針を発表しました。しかし、ALPS処理水はトリチウムなど放射性物質を含む汚染水であり、これを海洋投棄することは環境破壊として断じて許されません。福島には今も放射能に汚染されたままの大地が広がっており、多くの人びとが住み慣れた大地を追われ、帰りたくとも帰れない現状

が続いています。

わたしたち両教会は、原子力発電所の稼働を停止し、一刻も早く他者を犠牲とするエネルギー政策からの転換を求めるとともに、今なお、強いられる被曝によって痛み、脅かされている人々の命と暮らしが守られることを祈り求めます。

### 沖縄問題について

日本の安全保障のために沖縄の人びとは、これまで大きな犠牲を強いられてきました。それが近年、米中対立と日韓関係の悪化により沖縄が軍事戦略上重要な地であるという見方がより一層強まり、沖縄にさらに大きな負担を課そうとしております。

沖縄の米軍基地問題は、日米安保体制の負担をどう分散するかという政治問題です。軍事態勢とは切り離して考えるべき問題であり、日本政府は、辺野古新基地建設に反対の声を上げ続ける沖縄の人びとの怒りと悲しみの声を真摯に聴くべきです。基地周辺における騒音問題、環境破壊や人権問題、格差社会の深刻化など、沖縄の人びとの生活と人権が守られるように責任を果たすべきです。さらに安全保障関連の政策を抜本的に見直し、「正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し」(憲法第9条)、武力の行使によらない平和の実現のために力を尽くすべきです。私たちは「人権としての平和」を祈り求めます。

### ヘイトスピーチ問題について

ヘイトスピーチ解消法施行から5年が経ち、たしかに表立ったヘイトスピーチ行動は減少していますが、ネット上における匿名の差別的な書き込みは相変わらず続いています。最近は新型コロナウイルス感染症に関連する差別的書き込みや、ある化粧品企業のサイトにおける差別文書掲載の問題などが起こっています。私たちは、同法について、罰則規定を盛り込んだ法改正を求めると共に、この社会から民族・人種差別が無くなることを願って、これからも人権啓発活動を実施して行きます。

### 日韓関係問題について

わたしたち両教会は、アジア・太平洋戦争における罪責を神の前に想起し、かつて日本が近隣諸国への侵略と植民地化政策により多大な苦しみを与えたことを今一度深く反省しつつ、平和の主イエス・キリストによる和解と平和を祈り願います。

しかし、近年の日韓関係の悪化は、アジアにおける平和構築に大きな障害となっております。その背後には、日本社会に連綿と横たわる排外主義と歴史修正主義、朝鮮半島の分断による危うい立場にある韓国内政実情があります。わたしたちはそれらの問題を十分に理解した上で、いたづらに緊張を煽る政治主張やメディアに踊らされることなく、冷静な目をもった対話的な平和外交の道を切望します。そのため私たちは、日韓のキリスト教会が祈りを合わせ、和解と平和をめざす誠実な歴史認識の共有、相互交流、宣教協力の道を、いっそう力強く推進して行きます。